

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月29日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①SSHの取組を充実させ、文理に関わらない問題解決能力の育成を図る。 ②令和4年度から年次進行で始まる新教育課程に向けて、生徒に最適な教育課程の編成を行う。	①ICTを活用して学習内容の質を高めるとともに、SSHの取り組みにより、発展的な学習を目指す。 ②新教育課程の実施に当たり、すべての教員が「指導と評価の一体化」に関する理解を深め、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。	①各教科で、授業改善に取り組み、ICTを効果的に活用した学習成果を共有して活用する。 ②定期試験の作問の際の担当者ごとの検討、また評価方法の検討・職員研修等を通じて、授業の改善・評価の改善について共通理解を図り、指導の改善に繋げていく。	①ICTを活用して授業内容の理解を深めることができたか。教科内で学習の効果・成果を共有できたか。教科をこえて学習効果・成果を共有できたか。 ②学習評価の改善により組織的に取り組めたか。「指導と評価の一体化」をふまえて授業改善・評価の改善ができたか。	①授業改善に取り組み、ICTを効果的に活用した学習成果を共有して活用することができた。 ②定期試験の作問の際の担当者ごとの検討、また評価方法の検討ができた。 ・職員研修等を通じて広げていきたい。 ②上記①と同様に定期試験の改善、共有についても、教科をこえて共通理解・改善をしていきたい。	①SSHの探究的な学びを活用して大学への進学を総合型選抜などで考える生徒の割合を増やしてもらいたい。  ①ICTを活用して学習内容の質を向上させていることは評価できる。さらに、ICT利活用のテストなどを行い、発展的な学習を目指してもらいたい。	①SSHの探究的な学びでは、ほとんどの生徒が活発な研究活動していた。大学からの評価者の講評を省みても生徒の活動は高校生としては、高レベルな活動という評価を得られた。これまでの成果を大切にして将来的に進学する大学での研究テーマにつながるよう、より深い学びと興味を生徒に植えつけられるように内容の掘り下げと適切な支援を目指したい。 ①ICT活用のテストなどを行い、発展的な学習を目指していきたい。合わせて新しい評価方法についての理解を深めるために研修会などを通じて全体で共有するように努めたい。	①探究活動では、他校・大学等で行われている様々な取り組み事例を共有し、職員で協力して研修会等を活かし、生徒の研究活動の深化、深い理解と継続性を支援できるようにしたい。 ②新学習指導に伴う授業・評価方法の改善に伴って、ICT活用のさらなる情報共有を図るとともに、研修会を通じてより職員間の協力と理解を深めるよう努めたい。	
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒主体の生徒会活動を継続し、社会に貢献できる人材の育成を図る。 ②前4年間で構築した教育相談体制をさらに発展させる。	①コロナ禍で縮小した行事や生徒会活動の復元と見直しを図る。生徒の主体的な活動をサポートする。 ②支援が必要な生徒の情報を職員全体で共有し、すべての生徒が健康で安全な学校生活が送れる体制を整える。	①感染に対する動向に的確に対応できるよう組織的に取り組み、職員間、生徒間で十分に協議し安全な行事運営を心掛ける。 ②支援の必要な生徒の情報を常に共有し、全職員で対応できる体制を整える。	①健康的で安全な行事が実施されたか。生徒の主体性を支援することができたか。 ②一人の生徒に対し多くの職員がかかわることによって、問題を抱える生徒の課題解決を支援することができたか。	①コロナが5類に移行し、学校生活の制限が大幅に減少したため、以前のような活気ある生徒の主体的な活動が再開された。 ②年間に面談週を位置づけ、担任に関わらず多くの職員が生徒と向かい合った。情報を共有し合いそれぞれの生徒の課題解決を支援した。	①学校行事の規模や内容を単純に以前に戻すだけでなく、企画や運営を見直す良い機会としたい。地域や職員全体から歓迎される行事を運営するよう支援したい。 ②年を追うごとに登校できない生徒が増えており、より一層、丁寧な家庭との連携を図る必要がある。	②特別指導などに対して、全職員で対応できる体制を整えてもらいたい。また、その行為がなぜ特別指導になるのかなど身近でタイムリーな話題をSSHの時間に生徒たちに考えさせることも有効ではないか。	①感染症前のような生徒が主体となった活発な行事が展開された。その反面、自分達だけが楽しめれば良いという傾向が強まって、係の生徒・参加する生徒・来校者・職員の間で企画や運営について温度差が目立っていた。 ②登校について支援が必要な生徒に対して十分な対応ができた。一方で特別指導案件が増加しており、日々の生活指導や特別指導への対応について、全職員での共通認識を図ることが課題となった。	①時代の流れや、地域の特性なども十分に加味し、行事の企画をさせたい。生徒の意向をくみ取りながら、実施できることとできないことを理解させ、学校関係者、地域住民にも歓迎される運営を目指したい。 ②特別指導になる生活行動についてホームページや関係プリント配布によって生徒に周知する。職員に対しては年度初めに特別指導案件が発生した際の行動をマニュアル化し、職員によって対応の違いが出ないように徹底する。
3 進路指導・支援	①学習活動やSSHの取組をリンクさせ、大学入学選抜改革に対応した進路支援体制を構築する。 ②自分の将来を見据え、妥協のない進路選択ができるよう、個別指導を充実する。	①生徒の個々の目標に応じた進路指導を実現するための、サポート体制を構築する。 ②変わりつつある大学入学選抜制度に、対応できる体制を実現する。	①模擬試験の結果の分析方法、適切なアドバイスを教員1人1人ができるように、その方法を共有するための勉強会・研究会を充実させる。 ②大学説明会での情報を共有する体制を作るとともに、教員自身が情報の発信者となるよう、ガイドラインを整える。	①各種模擬試験が提供している分析システムを、各教員が使いこなし、面談等に活用できたか。 ②大学説明会の内容を、キャリア支援Gの教員以外でも発信することができたか。	①生徒の模試の結果を分析するツールの使用方法を共有することで、各担任の先生方が面談等で生徒に的確にアドバイスすることができた。 ②キャリア支援グループ以外の先生方にも大学別説明会に参加していただき、入試方式等について知る機会が増えた。	3年間の進路指導の見通しが立てられないという悩みが先生方から多かった。情報共有がしっかりとされていないことが原因。学年ごとの進路指導ではなく、全員が足並みをそろえた状態で3年間の指導にあたる必要がある。そのために、キャリア支援グループからビジョンを提示する必要がある。	①大学に入学することだけを目標とした進路指導ではなく、生徒の個々の進路目標を見据えた進路指導をお願いしたい。また、1年生のうちから「社会では何が求められているのか」等も教えてもらいたい。  ①研修会等を開いて、模擬試験の結果を分析する能力の向上を図り、実際の進路指導に活かし、生徒に適切なアドバイスが出来るよう研鑽に努められたい。	①研修会の開催により、本校生徒の学力面での強みと弱点を共有するとともに、本校生徒が望んでいる大学、またそのレベルについて共有することができた。  ②将来の展望や大学での学問に注目せず、ネームバリューや通いやすさ、過去の先輩の進学先などで大学選択をしている生徒がまだ一定数いる。進学先で将来の展望を持って学習に取り組めるよう、工夫する必要がある。	①引き続き研修会を開催するとともに、研修会の内容を踏まえた教科会等が開催できるような雰囲気作りを心掛ける。  ②1年次から大学見学や模擬講義などを積極的に実施することにより、自分の将来の目標や極めたい学問について考える機会を設ける。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月29日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	<p>①家庭や地域、同窓会等の協働を進め、開かれた学校作りの更なる発展を進める。</p> <p>②SSHの活動において他の教育機関や地域との連携を進め、コンソーシアムの構築を進める。</p>	<p>①若い世代に共感されるような同窓会の活動の実現に、同窓会と協働して取り組む。また、家庭や地域に開かれた学校づくりの実績を着実に積み重ねていく。</p> <p>②SSH指定Ⅱ期1年目の取組について、地域社会等にPRしていく。</p>	<p>①同窓会活動への理解を深めるために協働して活動の改善点を検討していく。</p> <p>②学校ホームページ、学校説明会、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて、地域の小中学校と連携した実績やSSHの取組について発信する。</p>	<p>①同窓会との相互理解を通じた改善点の共有ができたか。</p> <p>②学校行事における情報発信の実績と、地域の小中学生との連携実績及び、SSHの活動状況をホームページに掲載した記事数。</p>	<p>①学校説明会では、生徒会による説明に多くの時間を割くことで、受検生やその保護者に学校の特色等を的確に伝えることが出来た。事前予約では、スピード感を持って学校HPに掲載したことによって、周知徹底することができた。</p> <p>②今年度のSS科目で使用した教材をgoogleサイト上に整理した(生徒対象)。</p> <p>③文化祭において、3年生10班が研究発表(ポスターセッション)を行った。</p> <p>④地域貢献デーにおいて、科学部が小学生を対象に科学教室を開催した。</p> <p>⑤Scuolaセミナー、Scuolaキャンプの実施報告を随時HP等に掲載した。</p>	<p>①学校説明会の説明において、教員の説明と生徒の説明のバランスを考え、生徒会への事前指導をしっかりと行う必要がある。</p> <p>②学校見学会の開催時期・回数を受検生のニーズに合わせて検討する必要がある。</p> <p>③地域の小中学校との交流において、引き続きSSHの取組との連携を一層強める工夫が必要である。</p> <p>④生徒がGoogleサイト等を活用して自身の研究活動を外部に公開していく仕組みを整備する必要がある。</p>	<p>①学校運営協議会のときに授業参観を行ってみたい。また、卒業式や入学式の動画も一部で良いので公開できないか。</p> <p>①同窓会との相互理解・協働を進める必要がある</p>	<p>①学校説明会などを通じて、受検生やその保護者に学校の特色などを的確に伝えることが出来た。学校HPやe-kanagawaのシステムを活用したことで、円滑な事前予約と実施の周知徹底を図ることが出来た。</p> <p>①学校運営協議会が年3回開催されたが、初回は書面開催であった。第2回は定時制文化祭に合わせての開催、第3回は年度末の開催であったので、全日制の活動を学校運営協議会委員の方々に見ていただく機会を持つことができなかった。</p>	<p>①希望ヶ丘高校の特色と魅力を受検生やその保護者に伝えるために、学校説明会の内容の充実やHPの利活用を更に進めていく必要がある。</p> <p>①次年度の第1回学校運営協議会を開催する際、全日制の授業観察の機会を設けたい。また、入学式や卒業式など学校運営協議会の委員の方々に参列をお願いするために案内を送付することも考えられる。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①働き方改革に向けて、コミュニケーションツールの活用など業務の効率化を図る。</p> <p>②社会から新たに要求される様々な教育ニーズに対応できる教員指導力の向上を目指す。</p> <p>③生徒主体の学校行事等をさらに発展させ、課題発見・解決能力の育成を図る。</p>	<p>①BYOD環境の拡充を行うとともに、Teams等の活用を推進する。</p> <p>②各種の研修を通じて、教職員としてのICT活用スキルを高める。</p> <p>③学校行事の際に、ICT機器を積極的に活用していく。</p>	<p>①アクセスポイントの設置を円滑に行い、各教室のWi-Fi環境を強固にする。また、Teams等の活用を推進し、校務に支障が生じない環境作りを行う。</p> <p>②様々な研修会を通して、人権や教育相談といった視点から、これまでの教育活動を見直す。</p> <p>③文化祭や陸上競技大会等で、TeamsやForms等を活用し、ペーパーレス化や円滑な連絡事項を図っていく。</p>	<p>①各教室に充実したWi-Fi環境が整っているか。</p> <p>②クラウドサービスの活用で校務が円滑に進んでいるか。</p> <p>③研修を通じて、職員の共通理解が深まったか。</p> <p>④TeamsやForms等を活用し、連絡やアンケートがスムーズに行われたか。</p>	<p>①学校説明会や入選業務においても、Teamsを効果的に活用することによりグループ内の連携がとれた。また、無駄な紙を使うことなく校務遂行できた。</p> <p>①ICTに関する研修会を行い、多くの教員が参加し、ICTの積極的な理解を促す時間となった。</p> <p>②BYOD環境の整備を行い、学校の全ての場所において、通信環境が整うことができた。</p> <p>③ICT機器の管理を定期的に行い、職員用のPCを一人1台割り振ることができた。また、突発的に職員が増えても対応することができた。</p>	<p>①ICTに関する研修会を行い、多くの参加者が集い、良い時間となった。今後も継続し、長期的な視点での進化を図る。</p> <p>①Teamsが普及し、授業等での活用が進んだが、データの保存に関する問題や、PCの種類によってうまく起動しない等の問題も出てきた。今後はそれらの問題にどう対応していくのか協議が必要。</p> <p>②教室のプロジェクタ、スクリーン等の物品が購入から年数が経過し、老朽化している物品が多数ある。まとめた更新が出来ない状況であるため、今後の為の予算等を協議していく必要がある。</p>	<p>①ICTに関する研修会に多くの参加者があったことは素晴らしい。今後も継続し、より多くの教員がICTを効果的に活用できる学校であり続けてもらいたい。</p> <p>②授業で使用するプロジェクタ、スクリーン等の物品が、老朽化しているようなので優先的に更新されるよう調整してもらいたい。</p>	<p>①一人一台PCが推進され、R6年度より全学年がPCでTeamsを活用できるようになる。その中でBYOD環境の更なる整備と更新を行うことも今後の課題となる。</p> <p>②教室に常備してあるスクリーンについて、今年度の予算で何枚か更新することが出来た。</p>	<p>①教員のICT活用に関する研修は時間を掛けてじっくり進めて行き、多くの教員が授業内で使えるツールが増えるよう外部人材を積極的に活用し、興味が湧く研修会を開催できるようにしていく。</p> <p>②来年度に向けて、プロジェクター・スクリーンの現状把握を進め、優先順位を明確に出来るようにする。</p>